

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	23228001	研究期間	平成23年度～平成27年度
研究課題名	カイコ冬虫夏草由来のマウス海馬修復因子の構造解析とヒトへの応用開発	研究代表者 (所属・職) <small>(平成28年3月現在)</small>	鈴木 幸一（岩手大学・研究交流部・特任教授）

【平成26年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、カイコ冬虫夏草から老化マウスの海馬修復因子を同定し、その因子を機能性食品とヒト認知症患者の脳機能向上に向けた医薬品の候補物質とすることを目指している。因子の同定に成功し、単離された因子がアストロサイトの増殖活性に関わること、そして機能性食品開発が進んでいることやヒトへの試験が予備的に行われていることは評価できる。しかし、海馬修復因子の単離精製に時間を費やしており、この同定された因子が海馬修復因子本体であることの証明を含めた、幅広い作用機構解析を進めることが必要である。</p>	

【平成28年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。
A-	<p>本研究は、カイコ冬虫夏草（カイコのサナギに寄生するキノコ）から老化促進ネズミの海馬修復因子を単離構造解析し、それを活用してヒトの認知症患者に機能性食品や医薬品候補物質として提供することを最終目的にしている。</p> <p>本研究の成果として、海馬修復因子を同定し、単離されたアストロサイト増殖因子（ナトリード）が、神経成長因子等の遺伝子を活性化し、記憶学習を改善する作用機構を示唆したことは、評価に値する。一方、単離されたナトリードの誘導體合成は完成されていない。</p> <p>今後は、誘導體合成を完成するとともに、今回の研究で構築された認知症患者への機能性食品開発や、医薬品候補物質の基盤を実用化に向けての展開が期待される。</p>